

## 1 これまでの経過

	日程	内容
(1)	令和3年11月10日(水)	只見高校福島県推薦校決定
(2)	令和3年11月26日(金)	13時30分福島県推薦校表彰式
(3)	令和3年12月10日(金)	15時 只見高校東北地区候補校決定
(4)	令和3年12月13日(月)	第1回準備委員会開催
(5)	令和3年12月14日(火)	13時30分(本校体育館) 第94回選抜高校野球大会21世紀枠東北地区候補校表彰式
(6)	令和3年12月20日(月)	野球部が只見町長・教育長表敬訪問
(7)	令和3年12月24日(金)	カウントダウンボード設置(町寄贈)
(8)	令和3年12月26日(日)	福島民報あぶくま抄記事掲載 *これまで報道各社応援記事多数掲載
(9)	令和4年1月18日(火)	第2回準備委員会開催
(10)	令和4年1月19日(水)	祝選抜高校野球大会東北地区候補校決定 懸垂幕設置(町寄贈贈)
(11)	令和4年1月28日(金)	第94回選抜高校野球大会出場決定 祝甲子園出場決定懸垂幕設置(町寄贈) カウントダウンボード甲子園出場までの カウントへ変更(町寄贈)
(12)	令和4年2月15日	第2回後援会 大会出場記念誌作成業者選定審査会
(13)	令和4年2月24日(木)	知事・教育長表敬訪問
(14)	令和4年2月28日(月)	旅行業者選定審査会
(15)	令和4年3月4日(金)	組み合わせ抽選会 3月21日(月・祝)第3試合 対戦:大垣日大高校(岐阜県)
(16)	令和4年3月9日(水)	野球部甲子園出発式
(17)	令和4年3月18日(金)	甲子園開幕、雨天順延 3月22日(火)へ変更
(18)	令和4年3月19日(土)	甲子園開幕
(19)	令和4年3月21日(月祝)	全校応援団出発式
(20)	令和4年3月22日(火)	対大垣日大高校戦 (開始18時26分から20時19分)
(21)	令和4年3月23日(水)	全校応援団解団式
(22)	令和4年3月24日(木)	野球部帰校式
(23)	令和4年3月30日(水)	第3回後援会
(24)	令和4年7月18日(月祝)	福島県夏季大会全校応援
(25)	令和4年7月27日(水)	第4回後援会 長谷川監督への特別功労賞表彰
(26)	令和4年10月14日(金)	甲子園出場記念誌及び決算書案送付
(27)	令和4年12月7日(水)	第61回福島民報広告大賞(優秀賞)
(28)	令和5年2月12日(日)	只見ふるさとの雪まつり祈願花火尺玉

(29)	令和5年3月22日(水)	大会出場記念大堀相馬焼プレート贈呈式 (長谷川監督、只見町、柏市、高校)
(30)	令和5年4月18日(火)	会計監査
(31)	令和5年5月31日(水)	第5回後援会
(32)	令和6年5月7日(火)	会計監査
(33)	令和6年5月15日(水)	マイクロバス購入契約締結 (有)只見自動車整備工場
(34)	令和6年6月5日(水)	第6回後援会

2 決算について(資料2)

収入 20,693,248円

歳出 6,111,169円

差引 14,582,079円(残余金:繰越) ※うちダイレクト口座

3 今後の計画について(資料3)

中期5年間、長期10年間の視野に入れ、野球部を継続的に支援していくために、残余金を充当していくこととする。

※キャッチフレーズ:只見高校野球部全力疾走X(継続・変革)

- (1) 長谷川監督の指導の下で、野球(部活動)を通じて、あいさつや礼儀を重んじ、社会で活躍できる人材育成を支援
- (2) 継続的活動を支援(単独チーム・練習環境)
- (3) 大会応援

4 マイクロバス購入等について(資料4)

移動手段の確保が課題となっていたことから、大会や練習試合の移動に使用するマイクロバス(三菱ローザ)を購入(10,504,950円)

(令和6年5月15日購入契約締結、納期限:令和7年2月28日)

※残余金=14,582,079-10,504,950=4,077,129円

5 令和6年度予算及び残余金の使途について(資料5)

(案1) 中期5年間の強化費として、道具購入や練習試合等の遠征費の一部に充当していく。1年当たり約80万円

(案2) 甲子園記念碑(石碑)を学校敷地又は町下野球場に設置

※見積額:約60万円(1m×1m)

(案3) 校長室にある盾、トロフィー等をガラス棚に収納し、玄関又はロビーに陳列

※見積額(ガラス棚):約50万円(H180×W120×D45)

(案4) 案2又は案3を施行し、残余金(約300万円)を道具購入・遠征費等に充当

※1年当たり約60万円

6 今後の体制について

**組織体制は維持**し、今後も地域で応援してもらえるように情報発信や協力をお願いしていく。残余金管理を行い、支援金などの申し出があった場合には、同口座で受入れ予算管理を行っていくとともに、残余金の状況を見ながら、将来の強化費等に充当するため、企業を中心に賛助会員を募っていく。